

事業名

**つながろう興東、育てよう「興東ブランド」**

目 標

**三自治連合会の地域教育により故郷を誇りに思う子どもの育成**

## 1. 取組の視点

東里・大柳生・狭川の三自治連合会からなる本校区地域教育協議会は、今年度も子どもを中心に興東校区としてまとまる取組を推進しようとしました。過疎化・少子化が進む中、“地域の宝、財産”である子どもたちのために、広い視野のもと地域ぐるみで子育てをしようと連携が始まっています。

また、高齢化の中、地域のネットワークを広げることで、確かな絆へと相乗効果が起こり、地域に活力が生まれることを願って取り組みました。

地域教育力を生かした体験学習の工夫や、地域発信の“校区として一つになる催事”を実施しました。子どもも大人も地域の新たな発見や感動を体験し、共有することで大きな誇りを持つことができると考えました。

## 2. 取組の概要

## ①第2回興東フェスティバル

学校からの発信として、興東中学校に集い開催しました。午前中は幼小中からの歌や劇の舞台発表が行われました。多くの観客に緊張しつつ、歌や台詞に精一杯発表する子どもたちの姿に会場にはあたたかい拍手が溢れました。特に中学生は運営側として、また園児児童のよいお手本にならねばと努力している姿に、地域全員で集まる意義



が感じられました。

昼食は PTA が協力していただき、興東ブランドの米や玉ねぎを使った牛丼を味わいました。

その他、地域の方を講師とした体験講座や観劇

を地域の人たちとともに楽しむことができました。

## ②第1回《興東里山まつり》

市野外活動センターを会場にして、初めて地域主導で、地域教育の発信の場として開催しました。



当日は雨でしたが、約400名もの来場者があり、皆、活気ある会場の臨場感に圧倒され、感激しました。

今年で休止となった“大柳生太鼓踊り”の披露と体験、地域コーラスと全員による大合唱、地域住民による作品の展示と体験、地産の販売、シシ汁や新蕎麦の提供は、人の和と絆を再構築する貴重な場となり、地域の人々を喜ばせました。

## 3. 成果と課題

子どもたちの学びを発信する“興東フェスティバル”、地域教育力の発信の場としての《興東里山まつり》は、企画から実施に至るまで安直ではなかったです。しかし、度重なる話し合いをコーディネーターを中心に地域や学校園の担当者が持つことで内容や構成を充実させていくことができました。

これら地道な取組により本協議会のねらいの一端を充たすことができたと考えます。また、子どもたちを中心に据えた本取組をするために幾度となく顔を合わせ協議する場を持つことは、お互いを理解し立場を超えて協働することの意義を確かめることができました。この取組を地域全体にいつそう浸透させ、地域ぐるみのものにするよう次年度に継承していかなければと考えます。

事業名

**繋げよう興東 発信しよう「興東ブランド」**

目標

創意ある体験による真剣な学びと、考え行動する生徒の育成

## 1 取組の視点

全校生徒数40名、小集団としての課題はますます深刻です。少子化の影響を受け且つ地域の中で身近な手本とする若者の姿も見かけることは数少ないです。能動的に若者を含め来校者を多くし、そして生き方を学ぶ機会を多く設定することにより、自分の生き方について考えるとともに夢や自己肯定感を育ませるのです。その結果として、自分の考えをまとめ意見を発信するコミュニケーション力の育成を大きな目標としています。本年度もそのための機会や場を多数持つことを計画しました。また、地域の豊かな人材を活用し、心と技を学ぶことを柱にし、また地域の人の願いをも知る貴重な体験の機会を企画しました。

## 2 取組の概要

## ○多様な体験学習と地域交流

各学年3回程度の機会となりますが、「透かし彫り体験」をはじめ、「伝統的マナー講習」、「陶芸教室」、



「生花教室」、「蕎麦打ち体験」、「生き方学習」、「社会人とし

て」、「中華料理人に学ぶ」、「篆刻教室」などを、キャリア教育とリンクさせながら学習を進めました。すべての機会に生徒はキラキラとした眼差しで、多くの学びを体験するのです。単なる専門的、伝統的な技の披露ではなく、その人の生き方や心を学ぶことにより、自分の生き方を問い将来への夢を膨らませる時としました。また、恒例と成りつつある地域交流（貢献）は、環境整備活動として「通学路清掃」、そしてプランターへ花

植えし地域の人が集う施設や建物へお届けに行く取組です。地域の方はこの機会を大変楽しみにし、



大切に育成されます。直接地域と繋がるこの機会を生徒も大切にしています。

## ○学習支援活動

夏休みを中心にして、生徒と年令の近い地域の学生の力を借り“教科学習”をはじめとして、“社会や生き方”について様々な形で聴く機会を企画しました。

○興東フェスティバル、興東里山まつり、小中一貫教育パイロット校として積極的に幼中・小中連携をすすめています。様々な条件整備や緻密な計画が今後一層必要とされますが、子どもたち自身が異校種や異年令の域を超えて積極的な関わりを持とうとしました。

## 3 成果と課題

体験学習に取り組む生徒の真剣な姿は講師として来校されるすべての方から好評価を得ました。学習後の生徒は機会ごとに生きる世界感を広げたようでした。地域や幼小との交流においても、生徒の積極的な働きかけで随分取組が深まったのです。また、各校園の教員間の垣根はいっそう低くなり、膝をつき合わせ、子どもたちへの願いを語る度に様々な意見が交わされました。地域の願いを知り、この地で育った誇りを持ち自分の生き方をしっかりと考え歩める取組を続けたいです。

## 事業名 興東小のなかま、地域に学び地域を興せ

### 目標 地域の多様な人と出会いをもとに地域と連携・協働を目指す

#### 1. 取組の視点

地域の多様な人との出会いを大切にするとともに、地域の教育力を最大限に受け本校教育を推進しています。なかでも、米作りを主とした体験学習をはじめ、古来より伝えられる伝統文化を軸とする地域学習をする中で、地域を知り郷土愛を育ませること、また学んだことを誇りとして知徳体を備えた社会に通用する人を目指す児童の育成に取り組みたいと考えます。また、情報化が進む今日、児童が自ら考え、判断したことを相手に伝えられるよう、基礎学力を付ける取り組みをしています。特に、言語能力を高めるための授業研究を行いました。

#### 2. 取組の概要

##### (1) 地域学習事業

5年生が取り組んだ“米作り”は、田起こしに始まり、田植え、草取り、稲刈り、脱穀等収穫に至るまで、昔ながらの農法で主に行いました。



年間を通して地域の方々に支援していただく中で農業、科学技術、努力そして協力の大切さを知り感じることができました。また、地域で行われている農業・養蜂業の体験を行いました。“苺の育成と収穫”、“養蜂農家での蜂蜜採取と蜜蝋を利用したろうそくづくり”、“落花生の栽培と収穫”等の貴重な体験学習を行うことができました。

地域に伝わる伝統文化・行事にも触れることができました。「大柳生太鼓保存会」の方々の協力により今年最後となった“太鼓踊り”に使う太鼓を打たせていただいたり、例年、地域民生児童委

員の方々の協力で“注連縄づくり”“大とんど”を盛大に実施したりしました。“太鼓踊り”や“大とんど”の謂れを学ぶことができました。これらのことを学ぶことにより、地域に誇りを持ち、さらに視野を広げる教育活動につなげることが出来ました。

##### (2) 学力向上事業



自信をもって生き、社会に通用する人を目指し、国語科、算数科を中心に基

礎学力を付ける取り組みを行いました。「読書タイム」「スキルアップ（漢字、計算）」、地域ボランティアによる「お話の会」などを設定し、学力の定着を図りました。特に国語科は本校の研究主題ともリンクさせながら進めました。

#### 3. 成果と課題

統合2年目を迎え、広くなった校区から得られる地域の産業、伝統文化の再確認と伝承していくことの大切さを「生活科」「郷土なら科」等を通して学ぶことができ、郷土のことを誇れる児童に育ちつつあります。そして、今年は「興東フェスティバル」の機会を得て、地域から学び体験したり情報を得たりしたことをまとめ、地域の方々に発信することもできました。

さらに、地域との絆を強固たるものにするため教師がアンテナを高くし、地域との連携・協働を深め学習活動に取り入れていく必要があります。



事業名

**「いのち あい ゆめ」はばたけ大柳生っ子**

目 標

**豊かな心をもち、主体的に活動する幼児を育む。**

## 1. 取組の視点

過疎化や少子高齢化が進み少人数で住居が遠隔しているため、人とのかかわりや経験の幅が狭い傾向が見られます。そこで、園内外の環境（人・物・自然）と多くかかわり、興味や関心の幅を広げいろいろな感動体験を積み重ね、豊かな心を育て主体的に活動する幼児を育てたいと考えました。様々な人と交流したり、自然にふれたり、他校園との交流をしたりして、いろいろな体験を積み重ね自分から環境にかかわり、たくさんの友達や地域の方々と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことのできる取り組みを計画し実践してきました。

## 2. 取組の概要

小運動会、夕涼み会、運動会、園内作品展、餅つき、お茶会、生活発表会、保育参観等の行事に地域の方々を招待し、参加や協力を呼びかけてきました。どの活動にも大勢の方が参加していただき、子どもたちと遊び、子どもたちの成長を見ていただきました。また、地域の教育力を保育に取り入れる取り組みとして「おはなしの会」「わくわくABC」「お茶会」「リズムで遊ぼう」を計画的に実施しました。9月の敬老参観には祖父母の方と一緒に「わくわくABC」を楽しみました。地域にお住まいの大窪先生とともに歌やゲームを入れながら無理なく英語に親しんでいる子どもたちとともに祖父母の方にもこやかな表情で参加していただきました。

1月の「お茶会」は、地域の方を招待し、子どもたちが点てたお茶を地域の方に飲んでいただきました。地域の方々は、



ゆったりと落ち着いた雰囲気を楽しみながら、姿勢よく正座し真剣にお茶を点てる子どもたちに

「おいしいよ。おかわりほしいな」とやさしく声をかけてくださっていました。

9月には学校から地域への発信として「興東フェスティバル」を、11月には地域からの発信として「興東里山まつり」を幼小中と地域が参加して実施しました。園児の歌や合奏を見ていただき、園生活の様子の写真や絵を展示しました。地域の大勢の方と一緒に歌い、大柳生太鼓踊りを見せていただき、大きな和太鼓



を叩かせていただきました。地域と園・学校が一体になった催しでした。多くの方に見ていただいたり褒めてもらったりすることで自信につながり、のびのびと自己発揮し意欲的な態度も見られるようになってきています。

お米作りや年間を通しての野菜作りに親子で取り組みました。種や苗植え、水やり、草ひき、収穫、収穫祭等を親子ですること、食育の大切さを保護者も実感していただきました。子どもたちも自分たちで育てた野菜を収穫・調理して食べることを喜び、嫌いなものも食べられるようになった子もいます。幼稚園でとれた花や野菜の種や苗を保護者に持って帰ってもらい、家庭でも栽培をしていただく取組もしました。

## 3. 成果と課題

地域の方の温かさや地域のよさを保護者もともに感じる事ができました。進んで挨拶をする、人の話を落ち着いて聞く、興味関心をもって様々なことに意欲的に取り組む、人々とのかかわりを楽しみ周りの人と支え合う気持ちなどが育ち、豊かな心が育成されてきています。さらに今年度の交流や取り組みを継続し、地域の中の幼稚園として発信の仕方を工夫していきたいと思ひます。